

IWATE FOOTBALL ASSOCIATION

# 公益社団法人 岩手県サッカー協会 中期経営計画

「岩手 動きます」 一枚岩となって積み上げる未来

DATE  
2026年3月

TO  
令和7年度 第4回理事会

IFA

# 目次

---

本計画の概要	1
ミッション・ビジョン・バリュー	2
環境分析	4
岩手県	5
岩手県サッカー協会	5
登録数の推移	6
目標	7
施策	8
組織図	19
財務計画	20
5年間のロードマップ	26

# 本計画の概要

---

この度公益社団法人岩手県サッカー協会では、2026年度から5年間の中期経営計画を策定しました。本協会が設立し75年が経過し、先人の絶え間ない努力により岩手県内でのサッカーの環境が整備されてきました。2005（平成17）年には社団法人化を行い、任意団体から法人として組織の責任や役割が明確となりました。同時に法人としての社会的信用が高まり、事業の拡大を行うことができます。2011（平成23）年には、紫波町に岩手県サッカーの拠点となる岩手県フットボールセンターを建設しました。この拠点と共に岩手県全域で、サッカーの競技会・強化育成事業・普及事業を実施しています。

本計画は、従来のミッション・ビジョン・バリューを振り返り、新たな方向性を指し示すべく検討を重ねてきました。関係する全ての皆さまと共有し、今後の成長を進めるべく、岩手県サッカー協会は本計画を基に事業運営を行います。理念を具現化するための一歩を一緒に進みたいと思います。

公益社団法人 岩手県サッカー協会

## ミッション

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、岩手県民の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

## ビジョン

サッカーの普及に努め、いつでも・どこでも・誰もが身近で日常的にサッカーを楽しむことができることで、県民が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの育成と強化に努め、岩手県代表チーム・選手が活躍することで、岩手県民に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、あらゆる人々との友好の輪を岩手県内に広げ、社会に貢献する。

## バリュー

- 笑顔      サッカーの楽しさを伝えて関わる人を笑顔にすること
- 仲間      リスペクトの精神を重視してサッカーファミリーを増やすこと
- 団結      全県で団結を強化すること
- 挑戦      常に高い志と情熱で挑戦を続けること
- 信頼      積極的な社会貢献活動を実施し信頼される協会となること

# 環境分析：岩手県とスポーツ

<b>政治 (Political)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>第2期岩手県スポーツ推進計画の策定(2024-2028)</li><li>地方自治体・多様な主体との協働 連携によるスポーツ施設の利活用と誘致、地域活性化</li><li>地域の事情に応じた、地方自治体のスポーツ推進計画</li><li>豊かな自然にあるスポーツ環境</li><li>降雪時期における活動制限</li></ul>	<b>経済 (Economic)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>スポーツ施設の老朽化と維持管理を支える財政的課題</li><li>誘致にかかる補助金制度と民間からの支援</li><li>賃金の伸び率の課題(全国46位)とスポーツへの支出</li><li>プロスポーツチームの存在と地域経済への貢献</li><li>スポーツが企業で健康経営の取組を促進</li></ul>
<b>社会 (Social)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>人口減少(年約1.2%の減少傾向)と 少子(年少人口 11%) 高齢化(33%超・全国上回る) 消滅可能性都市に指定される地域 担い手不足と若年層の参加率低下</li><li>スポーツ実施率全国平均以下</li><li>多様なニーズの出現と対応、連携強化</li><li>スポーツが持つ、地域コミュニティの活性化</li><li>本州では最大の県土・全国2位 面積15275km<sup>2</sup></li></ul>	<b>技術 (Technological)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>スポーツ医科学の活用 競技力の向上と健康増進</li><li>ICT(情報通信技術)の利活用</li><li>超人スポーツの創出</li><li>ユニバーサルデザインの推進とインクルーシブな環境構築</li></ul>



**スポーツを通じて、  
県民一人ひとりが  
健康で輝ける岩手県**

生涯スポーツの推進：年齢問わずスポーツを楽しめる環境づくり。  
共生社会型スポーツの推進：誰もが参加できるスポーツ機会の提供。  
競技スポーツの推進：国際舞台で活躍できる選手の育成支援。  
地域活性化スポーツの推進：スポーツを通じた地域振興。

**岩手県全体としても生涯・地域でのスポーツを推進の現状  
強化面として、少数スポーツまた世界を舞台とした若年層からの育成へ注力**

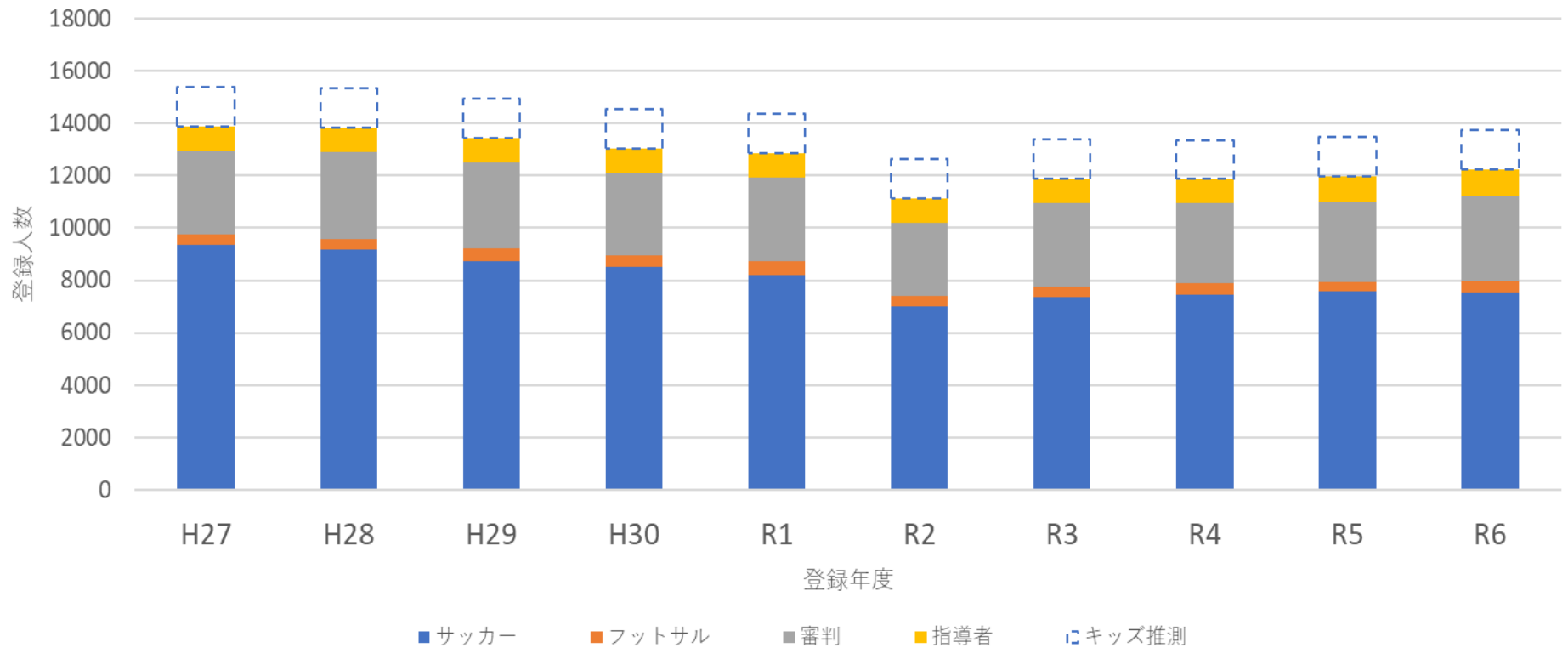
# 環境分析 : IFA

 強み (Strengths)	 弱み (Weaknesses)
<ul style="list-style-type: none"><li>・強固な組織体制と連携</li><li>・公益法人としての組織基盤</li><li>・ウェルフェアオフィサー制度の推進(安心安全な環境)</li><li>・継続的な競技力向上と普及活動</li><li>・生涯スポーツ優良団体表彰</li><li>・拠点としての岩手県フットボールセンター</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・気候変動への対応</li><li>・人口減少も起因する登録者数の変動と停滞</li><li>・地域格差(活動や機会創出の差)</li><li>・安定した協会運営と収益構造の課題</li><li>・広域分散による移動負担</li><li>・指導者不足</li><li>・若年層の県外流出</li></ul>
 機会 (Opportunities)	 脅威 (Threats)
<ul style="list-style-type: none"><li>・岩手県フットボールセンターのリニューアル</li><li>・部活動地域展開の推進</li><li>・地域活性化への貢献・コミュニティとの連携強化</li><li>・国際・上位大会の誘致の可能性</li><li>・DXによる効率化推進</li><li>・女子サッカーの成長</li><li>・スポーツツーリズム</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・人口減少と少子高齢化・過疎化の進行</li><li>・人手不足</li><li>・他競技との競合強化</li><li>・気候変動により大会運営への影響</li><li>・他競技の当県出身の有名選手の台頭 スポーツ資源の他競技への移転</li><li>・指導者の高齢化</li><li>・施設維持費の増大</li></ul>

**厳しい外部環境を  
乗り越え  
新たな成長軌道へ**

- 1. ピンチをチャンスに変える成長機会の獲得**  
人口減少・少子化の背景の中、FBCという拠点と部活動展開の機会を最大限に生かす
- 2. 「攻め」と「守り」の戦略的バランス**  
プロチームとの連携や女子普及拡大への積極的取組と並行した育成基盤の強化
- 3. 二層構造モデルによる県民価値の最大化**  
ダブルピラミッド(競技層とエンジョイ層)の明確化と、県民への継続した機会と価値の提供

岩手県サッカー協会  
サッカー・フットサル・審判・指導者 登録数推移



登録数として明確に定義されてきた以外のサッカーファミリーの指標を整理し本協会に関わる人々とのつながりを、増加させていく必要がある。

## 目標

IFAと各委員会で振り返りと共有・共通認識のもと一体となって実行する。

一人一人がIFA・サッカーの価値向上を自己意識として行動する。

## 戦略

サッカーファミリーの拡大

岩手県全域に広がるサッカー・フットボール

サッカーの強化・専門性の向上

IFA組織の価値向上

収入に見合った事業と最大限の活用

# 施策：全体像

「強化」「育成」「普及」「養成」「競技会」「WO/リスペクト」「組織・基盤」「施設」「地域性」「DX」の10つの領域が連動し、サッカーファミリーを拡大する施策を推進します。

**1. 強化**

トップチームおよび各年代選抜の競争力を向上させ、全国で戦える選手を輩出する。

**2. 育成**

長期的・一貫的視点に基づいた選手育成システムを確立し、質の高いトレーニングを実施する。

**3. 普及**

グラスルーツ活動を展開し、誰もがサッカーを楽しめる環境を作ることで参加人口を拡大する。

**4. 養成**

様々な学びの場を提供してブラッシュアップを図り、活動に適切な人員が配置される。

**5. 競技会**

リーグ戦文化の定着と大会運営の質的向上を図り、公平で魅力的な競技環境を整備する。

**6. WO / リスペクト**

誰もが、安心・安全にサッカーをすることができる。

**7. 施設**

グラウンドやクラブハウス等のハード面を充実させ、安全かつ快適にプレーできる場を確保する。

**8. 地域性**

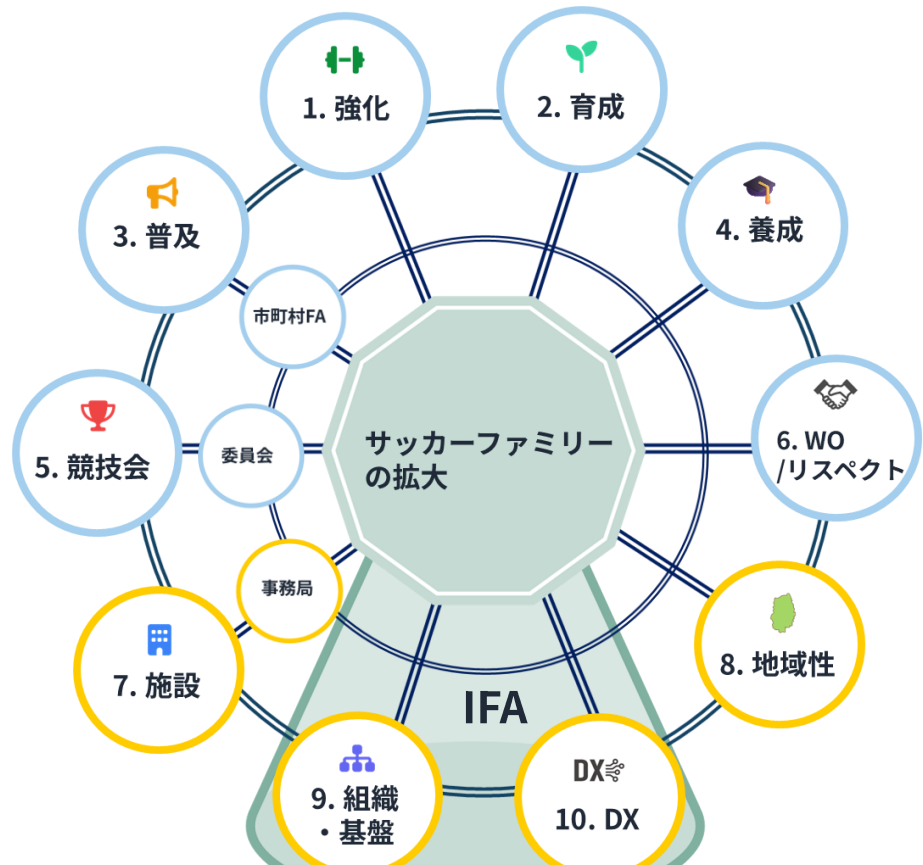
岩手という県土と向き合い、地域性に対応した活動や組織となっている。

**9. 組織・基盤**

ガバナンスの強化と安定した財政基盤の確立により、透明性が高く持続可能な運営体制を築く。

**10. DX**

挑戦と学びから、効率性・透明性を進めた組織に変わる。



# 01



## 強化

### トップ競技力の最大化

#### 目的

岩手県選抜および岩手県代表チームが競技・技術力を継続的に向上する  
全国大会で安定して結果を残せる体制を構築する。

#### 重点施策

県選抜チームの強化

トレセン活動の充実と年代別強化

岩手県出身選手が、プロカテゴリーで活躍する

選抜活動の一体運用 女子・各年代別代表間でのナレッジ共有

📈 2026-2031 目標KPI

**ベスト8以上**

国スポ 少年男子・少年女子

**New Record**

上位進出回数 of 更新

**プロ選手輩出**

J・WE・なでしこリーグ登録選手

# 02



## 育成

### 長期的選手育成

#### 目的

一貫指導体制が確立され、県・地区共に全域に周知されている  
関わったすべての選手を次のステージへ送り出すことができる

#### 重点施策

Make a Difference  
違いを生み出す選手の育成

岩手県強化・育成ビジョンの策定

恒常的な選手発掘とレベルアップ

ジュニア・女子育成強化と推進

#### 📌 2026-2031 目標KPI

**+20%**

育成プログラム参加者数

**拡大**

県→東北→全国への昇格率

**100%**

全地区でFAコーチが参加する地区  
トレセン開催

# 03



## 普及

「する」「見る」「関わる」の広がり

### 目的

誰もが、いつでも、どこでもサッカーを楽しめる環境を創出し、スポーツを通じた豊かな地域コミュニティづくりと健康増進に貢献する。

### 重点施策

サッカーとの出会いとなる  
グラスルーツ活動の推進を図る

インクルーシブな環境 障がい者サッカー  
支援、多文化・多世代プログラム

普及事業が県内全域で  
通年にわたり開催されている

未経験者へのアプローチ ウォーキングフ  
ットボール等の導入と定着

📈 2026-2031 目標KPI

**+30%**

年間体験者数の増加

**High Level**

イベント参加者満足度 (NPS)

**100%**

33市町村での普及活動開催

**拡大**

女子登録者の増加

# 04



## 養成

誰もがいつでも学び学ばれる環境

### 目的

岩手サッカーの持続的発展を目指し、指導者・審判・マネジメント等、包括的な養成システムと人材養成の機会をオンザピッチ・オフザピッチで継続して提供する。

### 重点施策

各種講習会が通年で実施  
主に若年層の積極的講習

研修形態の工夫 オンラインの活用

指導レベルと競技レベルの向上

強固な組織運営

2026-2031 目標KPI

**+20%**

指導者登録数の増加

**+10%**

審判登録数の増加

**月1回以上**

各種講習会の実施頻度

**年3回**

講演会等学びの機会の提供

# 05



## 競技会

安全・公平・学びの場

### 目的

選手育成と観戦価値を高める持続可能な大会運営を実現し、すべてのプレイヤーに公平な挑戦の環境を提供する。

### 重点施策

リーグピラミッドの整備  
年代・男女・地域毎の階層化

大会運営改善・DX  
暑熱対策の徹底

競技会の整理と通年実施  
競技会参加の価値が向上

フェアプレー推進 リスペクト精神の  
醸成と暴力根絶

📈 2026-2031 目標KPI

**98%以上**

年間試合消化率

**0件**

重大事故・熱中症重症化

**100%**

暑熱対策ガイドライン遵守

**前年比増**

観客数及び配信視聴数

# 06



## 施設

拠点・質とアクセスの向上

### 目的

誰もが身近な場所でサッカーを楽しめるインフラを構築する。  
岩手県フットボールセンターが岩手サッカーの拠点となり続ける。

### 重点施策

ピッチ増設と機能強化  
岩手県内のサッカー施設整備

グリーンプロジェクトの活用推進

FBCの利用率増と価値向上

県内施設ネットワークの構築・連携強化

📄 2026-2031 目標KPI

**75%以上**

施設稼働率

**+20%**

県内芝生化、ナイター対応面数

**High Level**

FBC利用満足度

**0%**

施設内事故



## 地域性

広い県土との共存

### 目的

広い県土における活動がカバーできる、組織・財政が確立されるプロスポーツと共に、スポーツが岩手県に根付く。

### 重点施策

市町村サッカー協会の連携

いわてグルージャ盛岡の活躍  
他 プロスポーツの躍進

部活動展開と地域クラブ支援

県内のどこでも・誰でも  
サッカーができる

📍 2026-2031 目標KPI

**20FA 維持**

市町村サッカー協会

**80%**

いわてグルージャ盛岡Jリーグに

**最低年1回以上**

市町村FAでのイベント事業数

**80%**

部活動地域クラブの  
各市町村での設立

# 08

## 大切に思うこと

RESPECT PROJECT



誰もが安心・安全に心からサッカー、スポーツを楽しむために



## WOとリスペクト

安心・安全・尊重

### 目的

リスペクト・フェアプレーの精神が浸透している

WO (WOG/MWO/CWO) 県内の登録チームすべてに養成されている

### 重点施策

WO 各養成講習会の継続

リスペクト グリーンカードの活用

暴力根絶活動の推進

県内全域での啓蒙活動

2026-2031 目標KPI

**100%**

委員会内WOG 養成者数

**100%**

県内登録チーム CWO在席

**5か所以上の活用**

リスペクト  
MYじんけん宣言啓蒙媒体

**▲ 50%減**

暴力根絶窓口通報

# 09



## 組織・基盤

### ガバナンスと財務基盤の確立

#### 目的

透明性・機動性・持続可能性の高い運営組織を構築し  
サッカーファミリー全体の信頼と発展を支える強固な基盤を確立

#### 重点施策

ガバナンスコード準拠 内部統  
制・コンプライアンスの徹底

収益構造の多角化  
財務基盤の安定と強化

新公益法人会計基準への対応

FA全体の役職員・委員会を含む  
責任の明確と対する待遇と報酬

#### 2026-2031 目標KPI

**100%**

外部監査・ガバナンス審査適合率

**20%以上**

パートナー・事業集積の伸長

**年2回以上**

コンプライアンス研修実施

**80%以上**

規程・規約 整備率

# 10

## DX



Digital transformation

## DX

### 新しい世界への一歩

#### 目的

F Aに関する業務・大会等へのDXの導入による効率化をはかる  
情報発信が強化され、いつでも・誰でも知ることができる

#### 重点施策

システム導入とデジタル化  
事務コスト現状から2割削減

情報発信の強化：HP/SNSの活用

JFAパスポート  
Kickoff新システムへの対応

オンライン・WEBの積極的活用

#### 2026-2031 目標KPI

**95%以上**

JFAパスポート導入率 対登録

**80%以上**

情報発信頻度

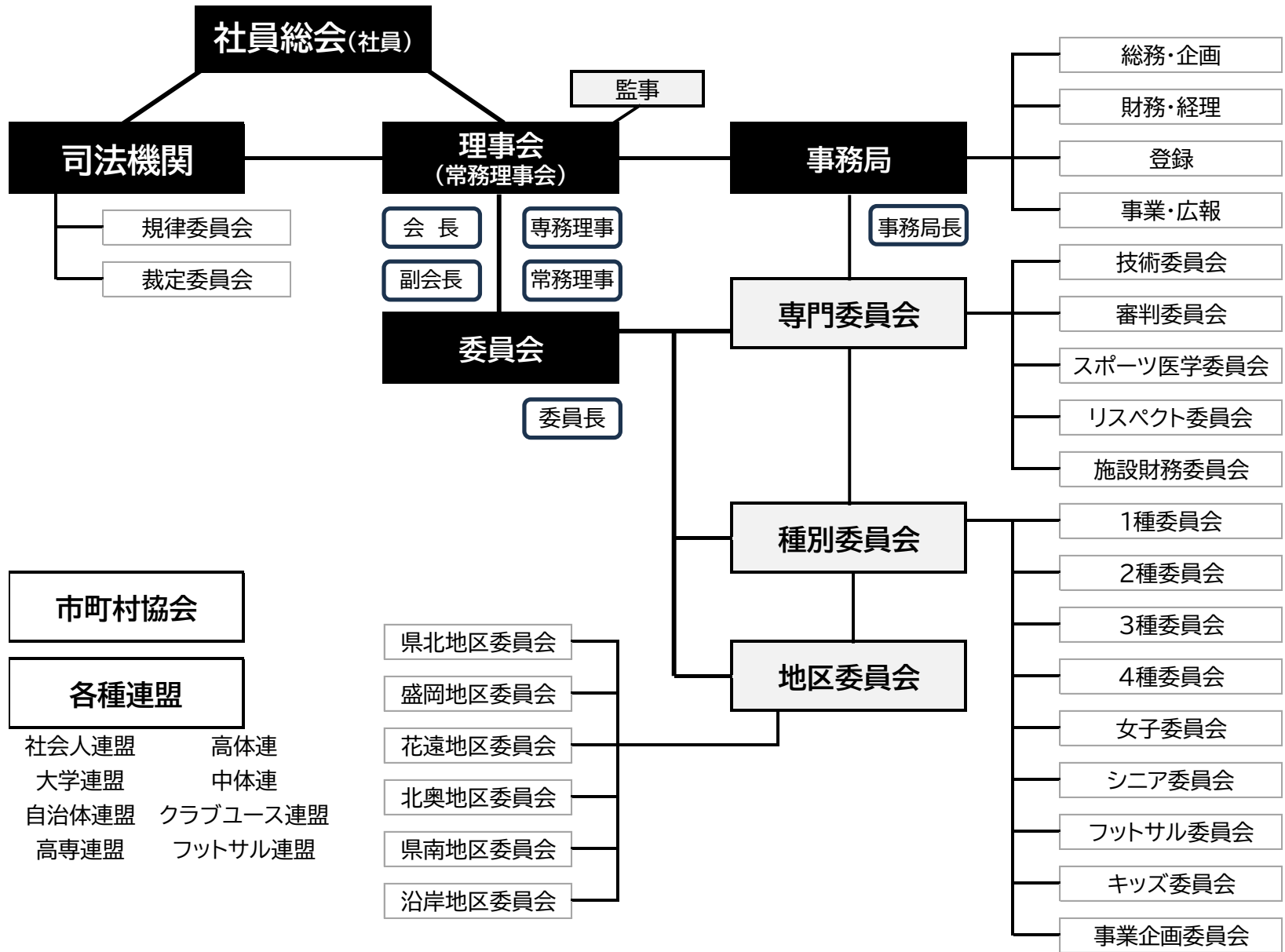
**50%以上**

デジタル化率

**80%以上**

オンライン・WEB 通年活用率

# 組織図



- PL（正味財産増減計算書） 単年の収入・支出は 共に増加し、活用する  
各事業に対するパートナーシップ契約、FBCの協賛獲得・利用率増加による  
単年収支が、収支均衡 かつ 2024年度比 ㇏ **13%増**（15,000千円）
- BS（貸借対照表） 資産は 正味財産は維持、現預金は増加を図る  
単年収入の増により、流動資産が ㇏ **2024年度末と同等に維持**（150,000千円）  
FBC改修における借入金が毎年確実に実行され、正味財産が2024年度末と同
- 収益構造比率の改革  
収益全体の補助金に占める割合が減少（補助金への依存からプチ依存へ）  
自主財源率を ㇏ **60→65%**に増加し自己裁量をもつ資金の比率が ㇏ **9%**増加
- 次の5年に繋がる財務計画が立案する  
FBCが資金を生み出す ㇏ **拠点** にもなる計画と行動  
特定費用準備資金を活用し、FBCの3巡目改修の計画立案  
特定基金を含む ㇏ **「岩手サッカーへの将来の投資」に向けた財務計画**

# 財務計画：PL・BS

2024年から2031年に目指す収支（単位：千円）

純資産【正味財産】 150,000	
流動資産	100,000
特定資産	50,000
その他固定資産	135,000
流動負債	135,000
固定負債	0

純資産【正味財産】 150,000	
流動資産	115,000
特定資産	0
その他固定資産	85,000
流動負債	0
固定負債	50,000

収入 117,000	
補助金	46,000
登録料	30,000
事業収入	33,000
協賛金	3,000
FBC	5,000
協賛金(FBC)	0
支出 114,000	
事業費	80,450
事業費(FBC)	11,100
減価償却	3,450
管理費	19,000

収入 132,000	
補助金	46,000
登録料	30,000
事業収入	36,000
協賛金	10,000
FBC	7,000
協賛金(FBC)	3,000
支出 134,000	
事業費	87,000
事業費(FBC)	13,000
減価償却	12,000
管理費	22,000

## BS

減価償却の利点を生かし、現預金の増加を図る

固定負債としての借入金返済を行う

5年後（2031年）特定資産は0円を想定  
 ↳ 以後の積立計画を立てる

## PL

公益法人として、大幅な黒字又は赤字とならない  
 収支均衡を図る

補助金収入・登録料収入は、増減なしを想定する  
 収入の確保に努める

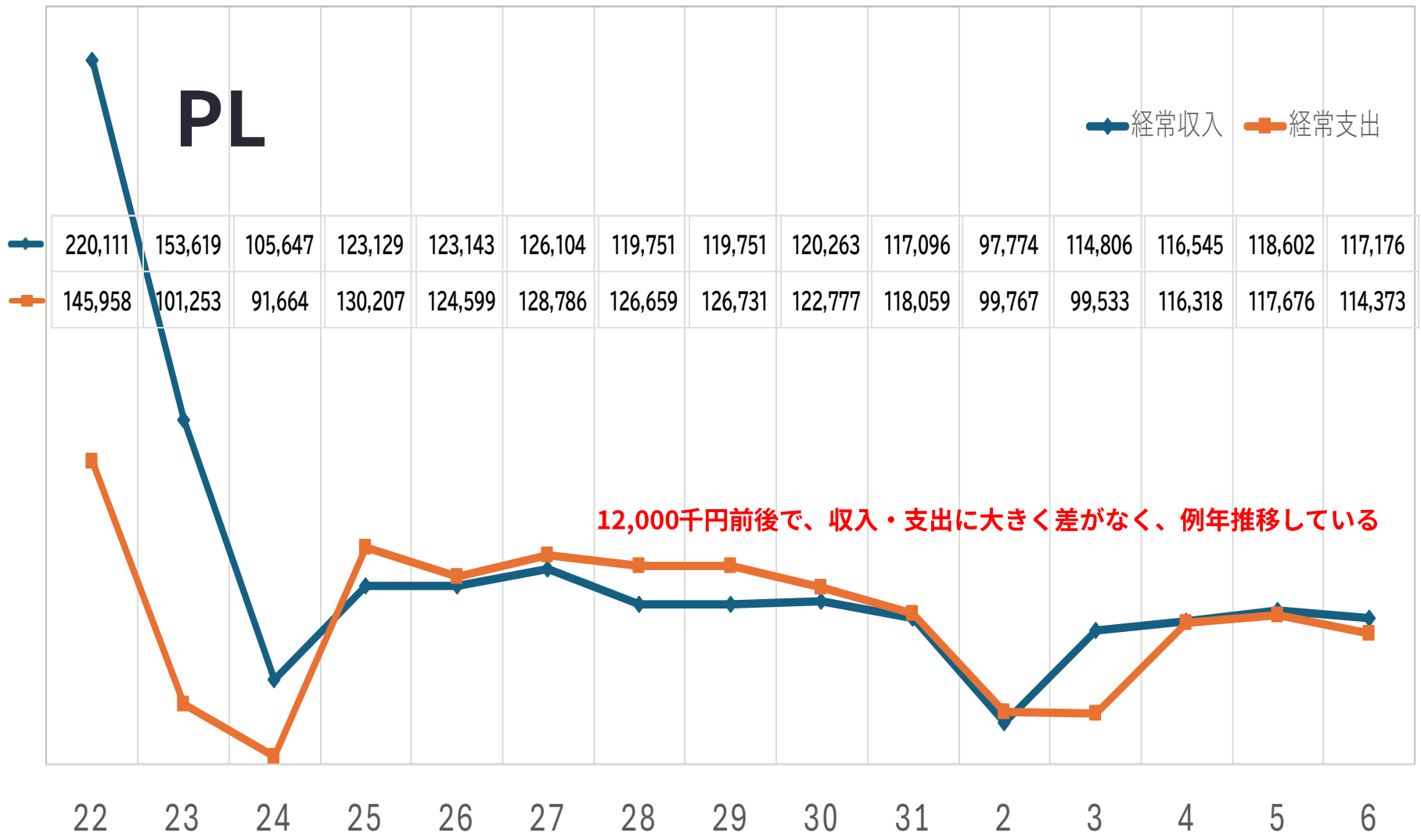
主に協賛・FBC収入の増加をはかり、各事業費  
 ・管理費に相応に充当する

事業費に係る予算管理が適切になされ、必要な  
 資金が投入される

# 財務計画：これまでの推移

経常収支推移表

(単位：千円)

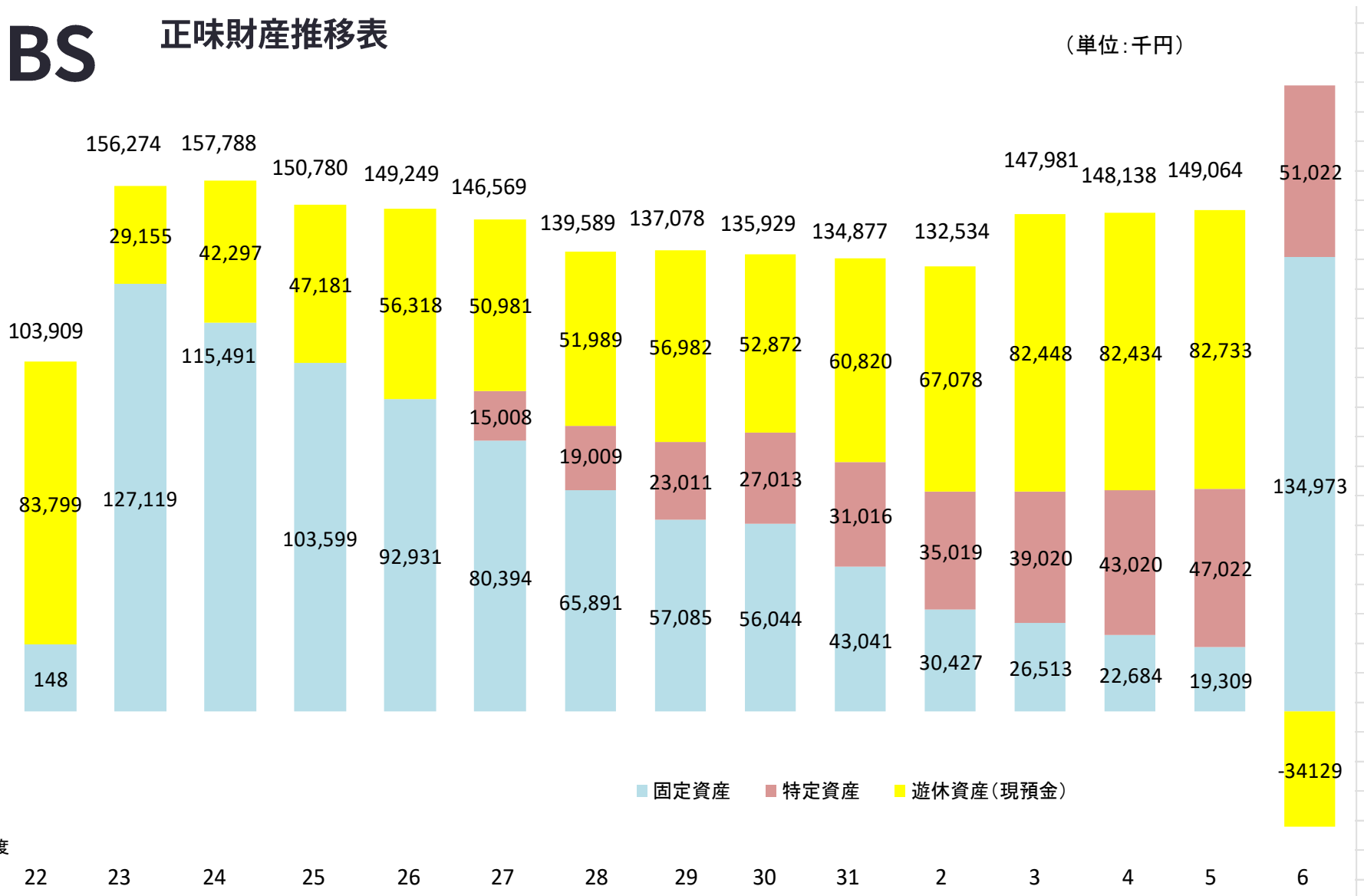


# 財務計画：これまでの推移

## BS

### 正味財産推移表

(単位：千円)



■ 固定資産 ■ 特定資産 ■ 遊休資産(現預金)


# 財務計画：収益構造

## □ 構造比率の改革

現在自主財源率が60%から65%まで上昇する  
 収入内訳における 会費（法人）・寄付金などの比率を増加させ、自己裁量の資金を増加させる


• 現在の主は個人会費収入で、50%が公益事業に繰入られている  
 • 5年後、法人の賛助会費収入 100社となっている

会費収入




• JFA以外の補助金収入の獲得方法を試みる  
 • 5年度JFA補助金外の補助金収入が、13%から20%となっている

補助金収入




• 登録料収入、5年後も維持する。  
 • 登録数維持、また拡大の施策を図る

登録料収入



• 公益法人として、寄付金収入を積極的な獲得を図る  
 • 5年後、総収入の1%の寄付金収入を獲得する

寄付金収入

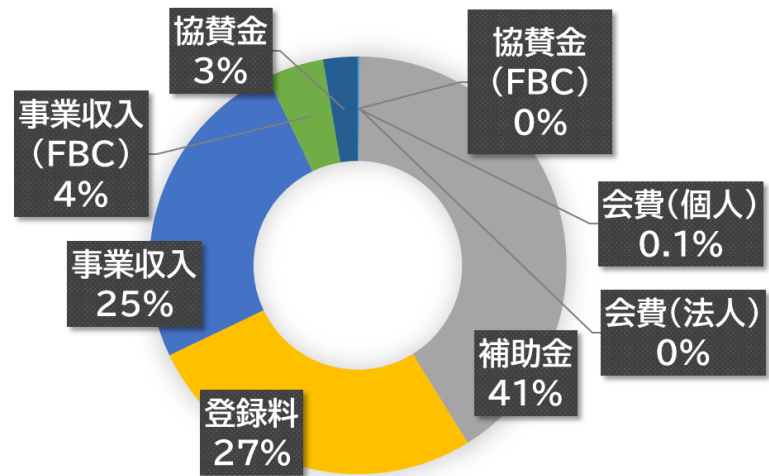


• FBC関連  
 • 主たる賃貸収入と利用率が30%増加する  
 • FBC関連の協賛収入の獲得する

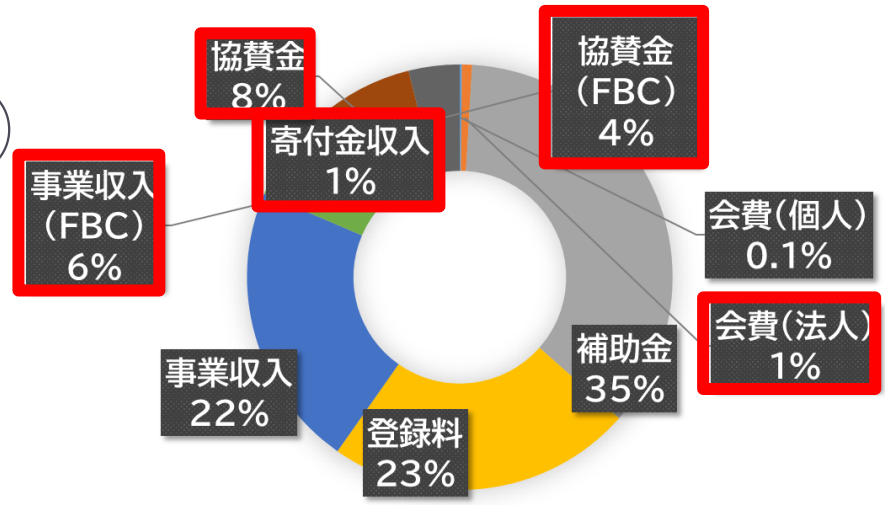
FBC



【現在の収益構造】



【目指す収益構造】



# 財務計画：その他

## □ 特定基金の活用

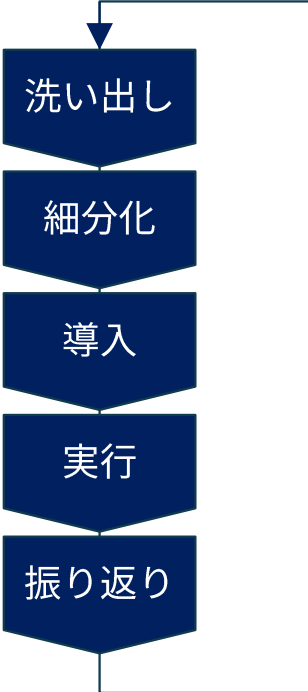
2025年度に策定した 特定基金「将来の岩手サッカーへの投資」の積極的活用

ターゲットとして【グラスルーツ】・【人】・【組織】を掲げ  
従来の繰越金より 総額 40,000千円 を10年の期間で活かすもの

## □ 経理事務のアップデート

公益法人として求められる  
水準を維持しつつ、  
経理事務のアップデートを  
図る

5年間で右図のサイクルを  
最低2回繰り返す



- ・ 現在の経理に関する業務を洗い出す  
（ いつ・どんな状態で・なぜ・頻度 等）
- ・ 業務を細分化し、分配・アウトプットの可能性を図る
- ・ 類似性を見い出し、整理を図る
- ・ 効率性・透明性がより図る施策の導入を検討する
- ・ 施策のシュミレーションや、説明会などで理解を図る
- ・ 組織全体で実行に移る
- ・ 定期的・継続的な実行になるべく、継続したアプローチとバックアップを実施する
- ・ 実行にかかる不具合や負担感を抽出し改善を図る

# 5年間のロードマップ

## 📍 ロードマップ

### 短期フェーズ

#### 共有と基盤整備

- 本計画の共有と浸透
- KPIの詳細定義・ダッシュボードの構築
- 優先施策の予算化
- 各種規程の改定着手

2025 ~ 2027

### 中期フェーズ

#### 制度展開・標準化

- IWATE's DNA の運用
- リーグ運営基準の標準化完了
- 施設整備推進・DX導入開始
- 普及イベントの定期的開催
- パートナーシップ拡大

2026 ~ 2028

### 長期フェーズ

#### 成果創出・発展

- 目に見える成果・達成  
連携・ネットワークの構築
- 全県・市町村でのサッカー活動定着
- 財務基盤の方向性確立
- 検証と次期中期計画の策定

2028 ~ 2030

**2026-2030** 未来への飛躍に向けた5か年  
誰もが・いつでも・どこでも 楽しめる 持続可能な環境へ